

EPOCHMAKER

豊島区立男女平等推進センター(エポック10) 情報誌

えぽっく・めいか

2011.3 No.39

親の世話をするのはだれ？

～ “娘・息子” の介護意識とジェンダー～



画：丸山 恵 (クラフトMIYA²)



- ◆巻頭インタビュー「娘」「息子」は親の介護をどう考えているのか 中西泰子さん
- ◆区民企画講座／私たちが選んだ“介護の本” 関連書籍紹介
- ◆平成22年度エポック10講座に参加して
- ◆男女共同参画苦情処理制度を知っていますか
- ◆エポック10情報 (23年度 講座予定／エポック10相談室のご案内)

P2-4
P5
P6
P7
P8



「娘」「息子」は親の介護

～これからの親子関係について、「若者の介護意識」

Q1. はじめに、なぜ若者の介護意識について調べようと思ったのですか。

A 少し前に、「パラサイトシングル」という言葉が流行りました。親世代が金銭的にも世話の面でも多大な負担を負って、子世代をサポートしていることが話題になりましたが、その子世代は、将来の介護などで親とどういう関わりを持っていくのか、持っていこうと思っているのかということが気になったのが出発点です。特に、娘の立場でどういう意識を持っているのかというのがひとつの軸になっています。

*1 パラサイトシングル…学卒後も親に家事を任せ、基本的生活を依存しながら、収入の大半を小遣いに充て、時間的・経済的に豊かな生活を送っている未婚者のこと。まるで親を宿主として寄生（パラサイト）しているように見えることから名づけられた。

光をあてられなかった「娘」たち自身の介護への意識

Q2. 「娘」の立場で、というのはなぜですか。

A それは、自分自身が娘としてどうするかということもありましたが（笑）。今までは、お嫁さんに見てもらえばいい、介護はお嫁さんの仕事といわれることが多かったのですが、最近、特に高齢の女性の間では、介護をしてもらいたいと思っている対象は、嫁にかわって娘になってきています。けれども、娘の立場にいる人たちが実際に自分の親や夫の親にどう関わろうと思っているのかは、これまでの家族研究では捉えられてきませんでした。介護の期待が寄せられているのに、その当事者である娘たちの意識にはまったく光が当てられていないというのは問題だろうということで、若者たち、特に娘としての意識には、どういう特徴があるのか調べてみたいと考えました。

Q3. 親の介護に対して「娘」や「息子」はどう思っているのでしょうか。

A 「将来親の介護をするつもりがありますか」という質問に対して、20代の女性6〜7割、男性4〜6割が「はい」と答えています。まだ若年層であるので理想的・楽観的な回答である可能性は高いですが、親の介護について積極的に嫌だという意識は低く、できるなら関わり続けていきたいという意識の方が多い。また、はっきりと「いいえ」と答えている人は5%しかいない。若者は親の介護について積極的に拒否しているわけではないということが伺えます。

Q4. 年齢や、配偶者・仕事の有無等によって、介護意識の違いはありましたか。

A 年齢については、本人や親の年齢が若い方が「子は親の介護をすべきである」という意識が強く、また独身

の人や子どもがいない人の方が親を介護しようとする傾向にあります。

仕事との関連では、興味深い結果が出ました。未婚女性は、結婚後に専業主婦でいたいと考えている人で自分の親を介護することはできるかどうかは分からないと答えている方が多い。また有配偶女性でも、働いている人で自分の親を介護するつもりがあると答える人が多くなっていますが、無職つまり専業主婦では、自分の親を見られるかどうかは分からないと答える傾向にあります。

一方、未婚男性の場合は、結婚後は妻に専業主婦でいて欲しいと答えている人の方が、自分の親を介護するつもりがあると答えている。つまり、配偶者が専業主婦なら自分の親をみてもらえるだろうと思っていることが伺えます。妻に専業主婦を希望しない男性では、自分の親を介護できるか分からないという回答が多くなっています。これは、もし妻が働いていたらみてもらえないだろうと考えているのでしょう。

自分がしなくても「介護する」男性。自分がしなければ「介護する」と言わない女性

Q5. 男性は自分が介護に携わらなくても、配偶者である女性が介護するなら「介護する」と答えて、女性は自分が介護に携われなければ「介護する」と言わないのですね。

A 男性は介護、すなわちケア役割を自分自身が担うということが意識の外にある。例えば、男性は独身だと介護できないと答えるが、女性はむしろ独身なら介護できると答えている傾向があることからそれが分かります。

自心が 自子がお母さんと仲良くすると「マザコン」?! —男女で「自立」の意味が異なる社会

Q6. なぜ、男性は自分自身がケアに関わらないのでしょうか。

A 親だから面倒をみたいというのは、性別に関わりなくひとつの感情としてありうると思うのです。男性がなぜ関わらないのか。そこには、関われないようなメカニズムがあるのだろうと考えています。介護が面倒だからやらないというのではなく、それ以前に親密な関係を築くということから男性が排除されているのではないかと。

男の子はお母さんと仲良くしていると「マザコン」と言われがちです。親との親密な状態が「自立できていない」状態である、「退行」していると言われてしまうのです。社会規範として、男性が女の子のように誰かと群れたり仲良くしたりしていると否定的な見方をされることが、男性をケアに関わりにくくさせている大きな要因ではないかと考えます。

をどう考えているのか」

著者・中西泰子さんにインタビューしました～



Q7. 息子の場合、母親と親密な関係をつくることが「退行」と見なされてしまうということについて、もう少し詳しく教えてください。

A 人間の発達について考えた時、親から生まれて最初は親に完全に依存しますね。一心同体のように依存する。それから成長すると親から離れ、それを自立という、これが伝統的な発達の考え方なのですが、実際には分離するだけでは自立は達成できていなくて、周囲とうまく関係性を持ち、適切に頼りあうことで達成されるということも指摘されています。

男性の場合は、特に分離的な自立を社会的に強く求められる。そのため、他人とうまく関わりあうことによって自立を達成するという認識に乏しい。よって、母親と仲良くするということが最初の密着した状態に戻ってしまうということになり、「退行」として認識されてしまうわけです。対して女性の場合、お母さんの悩みを聞いてあげるなど、ある程度対等になって、一人の女性同士として、ときに友人のような関係で話ができるようになったとき、すなわち、離れるのではなくて新しい関係ができたことによって自立できた・成長したと感ずることができるようです。女性の方が分離的な自立を社会的に押しつけられにくいということが、背景にあるのではないかと考えます。

男性が介護するとき—周りから押しつけられる 見えぬ壁（ストレス）

Q8. ここで現代社会の介護の現状について伺っていただきたいのですが。

A 介護が社会問題になっているのは、みなさんもよくご存知だと思いますが、2000年の介護保険制度導入がやはり介護における大きなインパクトだったと思います。

介護の社会化を目指してはじまった介護保険制度でしたが、最近その限界も取り沙汰されており、介護の再家族化（社会化の逆）—もう一度、家族に負担が戻ってくる—の傾向があることも指摘されています。これから介護の外部化を進めていくにあたって、その中で家族はどう関わっていくかということについて、私達がどういう希望を持っているのか、どういう不安を持っているのかを含めて改めて捉え直していかなくてはならない段階にあるだろうと考えます。

また家族の内でも外でも、女性の方がよりケアに関わっているということはよく知られているとおりです。男性介護者も増えてきてはいますが、やはり女性が多い。この女性が圧倒的に多いということによって、男性介護者が抱える特有の問題も出てきています。

Q9. 男性介護者特有の問題というのは、どのような問題ですか？

A 介護と就労とをどう両立させるかという問題がより切実になります。これは独身の娘の場合も同様なのですが、非常に大きな問題になります。それから、女性が無職で在宅介護している場合は、当然のことと思われるか、あるいは賞賛されることもあります。男性が仕事をせずに家にいるということは周囲から奇異な目で見られやすい。また、自分の親の面倒をみてくれる嫁を見つけれない人だ、と見られてしまうことさえあるといいます。伝統的な男らしさに反するという意味で、ストレスを抱えやすいということが指摘されています。

Q10. 介護される側が男性か女性かによっても違いがある—たとえば、母親が異性である息子に介護されるのは、ちょっと…ということもあるかと思いますが。

A セクシュアリティ（＝性）がどう影響してくるかですが、例えば、お義父さんを介護するお嫁さんの場合、それも異性だけれど当然だと思われてきました。それが息子と母親となると、急にセクシュアリティが問題にされる。お母さんと息子だといふ介護ができないかということ、必ずしもそんなことはなくて実際にやっている方は乗り越えてやっていらっしゃる。周りの目が違和を感じてしまっているだけかもしれません。

男性がケアに関わらないといっても、妻に対しては介護する男性が増えていると言われます。それは性的な関係を結ぶことができる特別な関係であるために、ケアすることに躊躇を感じにくいと考えられます。

男性は、他者と親密な関係を築くことから 疎外されやすい状況にある

Q11. ケアの現場で話を聞くと、優秀な看護師・介護士は女性であるという声が聞かれますが。

A 確かに性別による違いがあるかもしれません。その理由としてセクシュアリティの問題を言われる方もいますが、私は男性と女性では、他人との関係性の作り方が違うというのが原因ではないかと考えています。前述しましたが、男性は他者から切り離されたカタチで自立することが、現在でも強く求められている。それに対し

て女性は、繋がり続けながらも自立すること一依存的な自立一が許されている。

“マザコン”という女性ではなく男性を想定しますね。男性は、他者と親密な関係を築くというケアの基本から、疎外されやすい状況にあるのです。このことが自然にケアの現場に置いても女性の方がより「関係性をつくる能力が高い＝ケア能力が高い」と言われることにつながっているのではないかと考えています。

Q12. 生まれつきの違いということはないのでしょうか？

A 私自身は、ある程度はあるだろう全くないとはいえない、と考えています。けれど社会的に性差を過剰に意識させる形になっているのではないかと。ある部分では、男女差よりも個人差の方が大きいかもしれない。すなわち、男女差がないとは言えないが、文化的な社会に生きている以上その溝は適宜埋めることもできるし、逆に過剰に広げてしまうこともある、と考えています。

娘ならうまく介護できるという考えは、「神話」

Q13. ケアの一つに子育てもあると思いますが、女性を外に出て働くことは、だいぶ前なものになってきたとはいえ、子育てや介護は女性がするべきであるというのが根強くあります。不自由さの中でのケア＝介護をやる息苦しさがあると思うのですがそれはどうでしょう。

A そうですね。実際には自由に選んでいない。にもかかわらず責任は全部押し付けられるということはいろんな事例で指摘されています。女性だけが変えようと思っても、男性が変わろうと思ってなければ変化に限界があります。女性が働くようになって自分の意見を通せるようになったとしても、変わったのは、嫁じゃなく娘として介護に関わるようになったという変化があっただけで、女性がケアするということには変わりはないようです。それも含めて変えていきたいのであれば、ケアに男性が関わるように変えていくことが必要です。

Q14. 娘による介護は「介護する人が自分以外にいない」という理由で消極的な自発的選択の結果として引き受けるケースが多いとのことですが、その場合でも完璧な介護を当然視される苦痛があると思われま

際に社会からのまなざしを和らげるために私たちに出来ることはありますか。

A 娘だったら一番いい介護ができるはずだというまなざしが、娘である女性を苦しめている。それは「神話」であり、かつマイナスの効果も持っているということも認識されるのが一番ではないかと思えます。母性愛神話が育児不安を高めていることが指摘されてきました。これと同じように、娘ならば自然とうまく介護ができるはずという考えが現実でなく神話なのだということを繰り返し言っていくということが必要であると考えます。娘としての介護ならではの難しさもある。父息子、父娘、母息子、母娘、それぞれの状況で違った困難がある、どれだったら完璧ということはない、ということも介護したことがある方にお話を聞くと見えてきます。

母&息子でデパートに出かけても自然、そんな社会になれば

Q15. そのひとらしく介護され、介護できる親子の関係性をつくるために、子育ての際にどんなことを気をつけたいと思われま

A 男の子というのは親から切り離された形で一人立ちするものという考え方、離れることができないのは男らしくないという考え方を少しでも和らげていくことが、親にも周りの大人にも求められていると思います。息子が母親と買い物に行くのと娘が行くのとでは、周りの目や評価が全く違ってきます。「マザコン＝男性」といった感覚。男性女性どちらもがそうした感覚を変えていく必要があると考えます。子育ての際に限らず「男の子だったら一人で出来なきゃいけない」「女の子だったら愛想良く周りと仲良くできなきゃいけない」という固定的な性役割意識から離れ、母&娘だけでなく母&息子でデパートに買い物へ行っても自然、そんな社会になれば、介護で活躍するのは女性ばかりではなくなるのではないのでしょうか。

母子密着と親との親密さとは異なるものであるということ、自立と依存は必ずしも相反するものではないことを認識することが、ケアの基盤となる他者との関係構築におけるジェンダー差を和らげていくために有効であると考えます。

インタビューー：藤原ゆみ・吉田隆
西川栄治・柴田淳子（順不同）



なかにし やすこ
中西 泰子さん プロフィール

1975年生まれ。東京都立大学社会科学部研究科博士課程単位取得／博士(社会学) 明治学院大学社会学部付属研究所研究員、日本女子大学現代女性キャリア研究所研究員を経て、現職は相模女子大学社会マネジメント学科講師。著書に『若者と介護意識：親子関係とジェンダー不均衡』（2009年勁草書房）がある。

◇エポック10で中西さんの講座を開催します。詳細はP5参照。

申込受付中

3/25 金

午後2時～4時

※先着順
保育あり

講師:

中西 泰子さん

※区民による企画・運営講座です。



平成21年度の区民企画講座の様子

エポック10区民企画講座

親の世話をするのはだれ?

～“娘・息子”の介護意識とジェンダー～

親子の愛情に支えられる介護はなぜ“息子”ではなく“娘”の役割となるのでしょうか。将来、介護を担う20代の若者の介護意識から、これからの親子関係について考えます。

今回の区民企画講座のテーマは「介護とジェンダー※1」です。女性が結婚するとなぜ自分とパートナーの4人の親の世話を一人で、しかも無償で担うことが当然とされるのか。高齢化社会が急速に進んでいる現状の中で、とりわけ女性は長寿ゆえパートナーに先立たれた後の一人暮らしをいかに支えていくか。高齢者虐待を受ける当事者の多くは高齢女性で息子の割合が高いのはなぜか等、政策の立案・実施等全ての段階において、ジェンダーの視点を導入することの必要性を認識する契機にするのがねらいです。(吉田隆)

※1 ジェンダー…社会的文化的につくられた性別のこと



私たちが選んだ

“介護の本”

関連書籍 紹介



本書は調査に基づいて女性・男性とも男性自身が介護を行うという選択肢はほとんど認識されず、男性の介護における老親との関係やケアの現場からなぜ男性が排除されるかについて、性別分業の再生産の面から考察している。また就労女性（娘）の立場での介護はケアの正当な価値が認められないために女性の経済基盤を危くするという指摘も鋭い。(吉田隆)

『若者の介護意識』

親子関係とジェンダー不均衡
中西泰子著／勁草書房／二〇〇九



男の現在と将来を詳細に、また多角的に分析し、まさに一刀両断。虚勢を張って生きてきた〈男のビョーキ〉が老後の幸せの実現を邪魔し、女性のしなやかな老後の生き方とは対照的なものになるという筆者の指摘は正しい。

『男おひとりさま道』

上野千鶴子著／法研／二〇〇九

ゆえに40～50歳代の男性諸君は良く読み、60歳代以上は「男の七戒」と「おひとりさま道10か条」を心に留めたい。(西川栄治)



家族やまわりの人にさんざん迷惑をかけた挙句、満身創痍になって死ぬことは、多くの人が避けたい死に方でしょう。人間を丸ごと診る医療を心がけてきた医師の勧める、今を生きながら、「死」に向かって、日々エネルギーを高めるための12か条も記されています。(柴田淳子)

『達者でポックリ。』

帯津良一著／東洋経済新報社／二〇〇八



様々な人たちの体験談が書かれています。介護される側の衣服の楽しみ方、栄養面で気をつけること、終の棲家についての事情など、わかりやすく伝えてあり、老いについて前向きに考え、がん、認知症への対応など、介護する側、介護される側、双方に参考になる本。世代を問わず、老いを考えるよいきっかけになると思います。老いという道しるべを楽しくさせてくれる一冊です。(河島恵子)

『幸齢な生きかた』

青木みか・高橋ますみ編著／風媒社／二〇〇九

2010 エポック10の講座に参加して



エポック10では一人ひとりが自分らしく輝いて生きることのできる社会をつくることを目的とした講座やイベント、講演会を開催しています。



エポック10エンパワーメント講座2010

ステップアップ! スキルアップ! “わたし” カアアップ! 塾 (全4回)

日 時: 平成22年4月~5月(金曜日) 午後2時~4時

〈第1回〉 これからの“わたし”を考える~キャリアをデザインしよう 他

「キャリアデザインを考える」に参加して、自分の人生についてどのように過ごしていくか、改めて考え直しました。淡々と過ごすのではなく、目的意識をもって、自分の人生を考えることが大事なことに気づきました。

人生設計をしていく上で、家族としての自分だけでなく、自分自身がどうしていきたいかという、先を見通して行動することが大事なことに気づいたことは大きな収穫でした。スキルはいつでも学ぶことができることがわかり、勇気と元気をもらうことができた楽しい講座でした。(河島恵子)



エポック10大人の総合学習

初めての自分史講座—言葉で綴る私の生き方・自己発見の旅

日 時: 平成22年10月~平成23年1月(編集活動3月迄) 午後2時~4時

講 師: 折井美耶子さん(近代女性史研究者)



講師: 折井美耶子さん

以前から自分の人生を振り返りつつまとめたいと思っていました。つらいこともありましたが、それを乗り越え、仕事の醍醐味や感動を味わったこともあります。人生の折り返し点を過ぎて、自分の生き方を振り返り、これからの人生を見つめ直すいい機会となりました。

とくに、作家の先生からじかに文章を添削していただいたり、情報収集のしかたなどを教えていただいたりしたことは、大変参考になりました。生きるエネルギーもいただき、元気が出てきました。(藤田由美子)



エポック10&区民ひろば西池袋 共催事業

「パパといっしょに♪ベビーマッサージ」

日 時: 平成22年12月4日(土) 午前11時~11時50分

講 師: 青木美和子さん・三上さおりさん(ロイヤルベビーマッサージセラピスト)



◇他の赤ちゃん達の様子はどんなものかを知ることができた。【30代男性】

◇「子どもが泣いても問題ないので参加してくださいね」この講座で一番印象に残ったひとこと。【30代男性】

◇とても楽しかったのでまた別の企画があれば参加したい。スキップは1番の愛情表現。【20代男性】

◇同じ「子育て」を日々続ける仲間が集う機会として有意義な機会と感じた。子どもが泣いても良い環境で我々親も気軽に取り組めた。【30代男性】



男女共同参画苦情処理制度を知っていますか

●まず知ろう - 男女共同参画社会とは？

●男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会と規定されています。（男女共同参画社会基本法第二条）

●基本理念

男女の人権・個人の尊厳を重視

社会の制度・慣行について配慮

家庭生活と他の活動の両立

国際的協調・国際社会と協力

政策立案・決定への共同参画

●男女共同参画社会 - その目指すところの具体的なイメージは？

職場に活気を

- ・女性の方針決定過程への参画を促進し、多様な人材が活躍し生産性向上
- ・働き方の多様化を進め、男女が共に働きやすい環境で能力の最大限発揮

家庭生活の充実を

- ・家族の構成員が相互に尊重、協力し合う家族パートナーシップ強化
- ・仕事と家庭の両立支援環境を整え、男女が共に子育て、教育に参加する

地域力の向上を

- ・男女が共に地域・ボランティア活動に参加し地域コミュニティを強化
- ・地域の活性化、暮らし改善により子どもが伸びやかに育つ環境を実現

●豊島区では男女が共に意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会を目指し、**性別に起因する差別等の人権侵害や男女共同参画についての区の施策への苦情などの申し出**について男女共同参画推進条例に基づき、独立した苦情処理制度を設けています。

●豊島区男女共同参画苦情処理制度とは…

●苦情・救済の申し出について…

- ①指定の苦情処理委員が皆さんや関係者からお話を伺います。
- ②男女共同参画の視点から検討し、適切・迅速に処理します。
- ③皆さんに代わり必要な調査を行い、勧告、意見表明、助言、是正の要請等を行います。
- ④皆さんのプライバシーは守られます。

●申出方法は…

- ①原則書面です。申請書は窓口、または豊島区ホームページからダウンロードできます。
- ②直接窓口で提出、または郵送かファクスでも受け付けます。
- ③申出先 **〒171-0021 豊島区西池袋2-37-4 男女平等推進センター（エポック10）内 豊島区男女共同参画 苦情処理委員宛** ファクス **03-5391-1015**

●色々な疑問？お手続きについてのお問い合わせ？等は **エポック10**まで電話かメールでお願いします。●TEL03-5952-9501/Eメール A0011400@city.toshima.lg.jp まで。

迷っている人、悩んでいる人、
お話ししてみませんか？

エポック10では、男女共同参画社会の実現に向け、講座、講演会などの開催、情報誌の発行、学習相談、区民や団体の交流の場や機会を提供しています。お気軽にご利用ください。

平成23年度イベント・講座開催予定

エポック10アンコールシネマ上映会

映画の中の人々の生き方、考え方に触れる。保育あり
○4月15日（金）午前10時～12時
「子供の情景」（2007年／イラン・フランス／77分）
○4月15日（金）午後2時～4時
「百合祭」（2001年／日本／100分）

エポック10おとなの総合学習 「子どもを守るためにわたしができること」

○4月14日（木）午後2時～4時
「ケータイ・インターネットと子どもたち」
○4月23日（土）午後2時～4時
「すぐそこにある子どもたちの危険～性犯罪・性暴力～」

エポック10フェスタ2011

6月11日（土）～18日（土）
毎年6月は、エポック10開館記念と国の男女共同参画週間（6/23～29）にちなみ「エポック10フェスタ」を実施します。今年は開催期間を1週間に拡大し、登録団体、実行委員会による様々な企画がさらにパワーアップ！

ワーク・ライフ・バランスフォーラム

男女共同参画都市宣言10周年記念講演会

※詳細は、広報・ちらし・ホームページ等でお知らせいたします。

次号「えぼっく・めいかーNO.40」の 編集委員を募集します！！

区民企画講座・情報誌編集委員として活動してくださる方を募集いたします。

活動期間：平成23年7月～11月頃（予定）

活動内容：①区民企画講座の開催（11月頃）

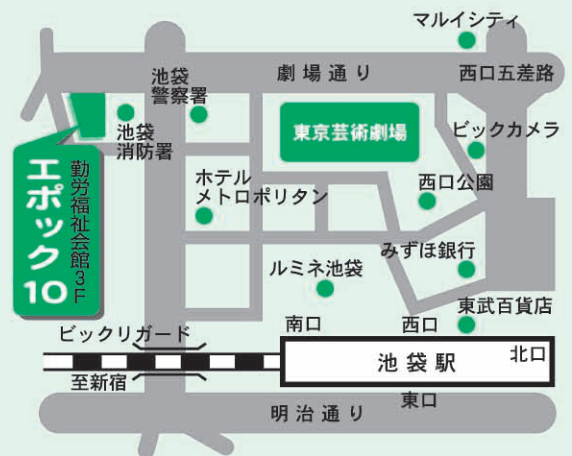
②情報誌「えぼっく・めいかーNO.40」の企画・編集（10～11月頃）

※詳細はエポック10まで

エポック10相談室 TEL:03(3980)7830

- 一般相談は、月～土曜日の午前9時～午後5時です。
- 専門相談は、女性の「弁護士・医師・臨床心理士・カウンセラー」が相談に応じます。
- 専門相談は、予約制です。 ※相談は無料です。

相談名	曜日	時間
法律	①第1金曜日	午後1時30分～4時30分
	②第3金曜日	午後6時～9時
からだ	第2金曜日	午後5時～8時
こころ	①第2水曜日	午後1時30分～4時30分
	②第4火曜日	午後6時～9時
DV	第3水曜日	午後1時～4時



豊島区立男女平等推進センター (エポック10)

〒171-0021 豊島区西池袋2-37-4 (3・4階)
TEL: 5952-9501 FAX: 5391-1015
Eメール: A0029117@city.toshima.lg.jp

開館時間

月～土曜日：午前9時～午後9時
毎月最終月曜日の前日（日曜日）：午前9時～午後5時
※毎月最終月曜日・日曜・祝日・年末年始は休館です。

〈発行〉豊島区
〈印刷〉有限会社 オール印刷工業

この印刷物は再生紙を使用しています